



『一冊のノート』（8月30日）を振り返って・・・ <みんなの感想より>

- おばあちゃんは孫のことをとても大切に思っていて、歳をとってしわが増えても、心はきれいだなと思いました。私も隆や僕のように、自分のことを大切に思ってくれている人を、ちゃんとわかってあげられていないと思うので、しっかり家族の想いを理解して家族と触れ合っていきたいです。（女子）
- もう中学生になっているのだから、自分でできることくらい自分ですればいいと思いました。お母さん、お父さん、いつもありがとう。家族がいてこそ自分。（男子）
- 生老病死。自分はまだ「生」の最中だが、親が「老」に近づいた時も責めるのではなく、手助けできるように努力していきたい。（男子）
- この話を聞きながら、自分の祖父母のことを思い浮かべた。今はまだ元気だけど、いつ何が起こるか分からない。たまにキツイ言い方をしてしまうけど、小さな頃から見てきてくれた大人の1人だから、感謝の気持ちを込めてこれから支えてあげたい。（女子）
- おばあちゃんも好きで忘れていくわけではないし、自分だっていつかそうになってしまうかもしれないから、すぐに怒らずに一緒にがんばっていかないといけないということを思いました。（男子）
- おばあちゃんは自分で自分を責めていたのに、さらに僕たちから言われて本当に辛かっただろうなと思いました。もし私が「僕」の立場だったとしたら同じように怒っていただろうから、とても切なくなりました。「僕」は自分が今までしたことがおばあちゃんを悲しませているんだと、ぽつんとにじんだインクの跡を見て思ったと思います。（女子）
- やっぱりどんなにいやなことがあっても家族は家族なんだと思った。自分もこうなるよ、こんなにつらいよと、前で教えてくれているんだと思った。前に行く人が後ろの人を導いていくんだと思った。（男子）
- 私はこの「一冊のノート」を読んで、私も僕みたいに母をせめてばかりで、素直に「ありがとう」も言えません。自分でも素直な気持ちにならないといけないと思うけど、はずかしくて今まで言えませんでした。だから、この授業で気づいたことを今から生かしていきたいです。後悔をする前に自分を新しい自分へ変えたいです。（女子）
- 祖母は祖母なりにがんばっていたし、物忘れはしかたないのに、気づけたことがよかったと思う。世話をしてくれている人に対してどんな態度をすればいいかが分かった。これから祖母も気にすることはないし、よかったなと思った。（男子）
- 私はこの話を読んで涙が出そうになった。誰でも歳をとると、物忘れが多くなったりするんだから、自分たちが今までめんどろ見てもらっていた分、恩返しと共にめんどろを見る側になるのがいいと思う。（女子）

「一冊のノート」というお話を読みました。僕の問題集を勝手に片づけてしまう祖母、変な格好で出掛け、笑われている祖母、伝言を忘れてしまう祖母。一緒に暮らす祖母の言動に僕たちは苛立ち、迷惑していました。「一冊のノート」を見つけるまでは、みんなも読み進めるうちに、普段なかなか言葉にはできない家族への想いが溢れたのではないのでしょうか。これを機に、家族を振り返るのもいいかもしれません。一見自分たちが「お節介！」と思う家族の言葉や手助けにも、そこに込められた想いに気づける心をもっていたいものですね。そう簡単にノートは見つかりませんよ。